

寺崎組新聞

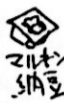
発行所 寺崎組新聞社



九州

大野宿宴会

トーンと



「運動会の時期に宴会はよそう」の巻
 去る十月八日、私と沢海氏は宮崎県北郷村の山中で朝を迎えた。林道の真ん中で野宿し、朝からカレーうどんがウダ作っていたものだから、遅くても良かったものの今日は寺崎組のある日だからと、いつもより真剣に出発したのである。

林道を一気に駆け下り、諸塚から飯ケ瀬から蘇陽、そして阿蘇外輪山の麓の町高森へと、寺崎組の集合時間に遅れまいと一生懸命走ったのである。大きな看板を出しての割には貧弱な品揃えの酒屋で焼酎を買った。その隣の村の雑貨屋みたいなコンビニで食料を買った。宴会地である鞍野野宿場へ向けて先を急いだ。

急がなくてもいいのに、急いだにもかわらなず一時間遅れの午後一時に着いてしまった。誰かいるかと思いきや、シンと静まり返っている。九州にも是非ノンビリしたい九州時間というのがあるんだ。その時は思った。沢海氏とたまたま二人、まるでヨーロッパの公園のような秋景色の中、ゴミを集めてゆらゆらと焚火をし酒を飲み始める。しかし、焼酎だと思っちゃった。四合瓶が何となくか、日本酒だ。た。酒といえど焼酎であるこの九州で、しかもある酒屋で買った日本酒を何で飲まなきゃならぬの。焼酎の言葉は、最初から飲んだ沢海氏の最初の言葉は「あつ甘い、あれ、これワイン? あつやつやられたっ、日本酒だ!」。あ、あつと、後は密かに隠し持っていたレッドとハイニックスブレンドのウイスキーを飲むしかない。でも、心やさしき九州の組員はきつと焼酎を持って来るに違いないと、焚火の前で悠長にも昼寝などしていたのだ。バイクの音一つせず、ぐつぐつと夕暮れ時、雲は厚くたれこめ寒くなつて目に覚めても、沢海氏がタヌキのように寝ている姿しか見え、と、ありあらず悪夢かと思つたが現実だった。

あたりは暗くなり雨もポツポツ落ちてきて、一層わびしくなってきた。焚火の明りもあつた。おと思つたらバイクの音が近づいてきた。おと思つたら空荷のバイクがツーツツと私達の目の前を通り過ぎて行った。その何台目かというとう私達の前に止まるバイクがあつた。六十一号山崎氏である。思えば四年ほど前の九州初野宿宴会に参加した。熊本の現場監督を休職して全国を放浪中だつた。

予想通りに九州焼酎「白岳」一リツトルを有難く頂き、昔話に花が咲き、地元密着型の地方で運動会をやり、その連体中、宴会はやるまいと固く誓い合つたのである。真夜中に車で遊びに来た人もいたようだった。私はずつとこの夢の中だつたのだ。うう、これからの九州は招集令状を発布する事にしよう (記 組長)



(F) 崎山組長とメンバー、(G) 崎山組長とメンバー

（F）崎山組長とメンバー、（G）崎山組長とメンバー、（H）崎山組長とメンバー



1994年9月12日撮影

ああ、旭岳

8月の北海道野宿塾に参加ついでに旭岳に登った。旅に出る前は十勝岳に登るうと思つて、軽登山靴をバックに入れてきたのだが、塾で一掃だった自衛隊北脇さんの「旭岳はいいよ」の一語で予定を変更した訳です。そして山で一泊もこの時決つたのだ。山中泊は全く考えていなかった。ストンプは重くてかさばるオリーブスしか無く、荷物の重量化に耐えうるだけの体力があるかどうか問題だが、上りはロープウェイがあるので大丈夫だろう。しかしそのままで大丈夫なもので、その他の部分で軽量化を考えた。コッヘルは中を取り出して一個にし、水も2リットルにした。ポリタンが3リットルでチャップリウささいが、熊よけぐらいには。でも酒は忘れない。ビール500x2、350x1、日本酒一合、ウイスキー少々。ロープウェイに乗る時、荷物が多い人は計って料金を取られるのだが20kgちょっと。全然軽量化できている。それから料金は人と合わせて1800円。「下りは使わねえぞ」とひそかに誓う。とは言っても歩けば2時間の所を20分で上がってしまうので、文句ばかりも言えない。上がる。まだ昼時のせいもあり人がいっぱい。僕は高山植物を見ながらポチポチ

チ行く。地図を見ると後旭にキャンプ指定地がある。旭岳に直接登るとキャンプ地まで近すぎるので中岳方面を回るコースにした。逆にこれだと6時間キャンプ地に着くのが24時位になってしまひそう。どうせキャンプ地では酒を飲んで寝るだけだから、いっか。天気は雨こそ降らないが、ガスが雲のせいで展望は良くない。1時間ほど歩くと分岐があらわれた。最初、地図と照らし合わせて分岐はもつと先だと思つていた。地図では1時間45分と書いてあるからだ。地図の時間より遅いこととは何故もあるが、こんなに早かったのは初めてだ。多少の不安があるが地図を信用して曲がることにする。この辺まで来ると人とすれ違わなくなり静かになってしまった。相変わらぬ静かの中、起伏も少ないのでスタスタとさらに一時間ほど歩くとちゃんと中岳温泉が現れた。ここでやっと確信できたのだ。この中岳温泉は知っている人もいないと思うが、岩で囲った水深30cm位のまさに自然の温泉なんです。まずお湯の温度を確かめる。我慢できるぬるさ、となれば入るしかない。汗でベッタリ状態のシャツをビヤツと脱いでつかってみる。源泉から離れた所は冷たい。川の水を引き過ぎたのが原因であろう。僅かにあったかい所、かるく体を流して終了。それ以上は風が冷たいのでやめた。とにかく温泉にはつかつたのでよしとしよう。温泉から先、岩場の登りになった。ここで今日の人のすれ違いは終わつた。ここからキャンプ地までの2時間は誰とも会わなかった。岩場の登りをすざると、ほとんど平になる。そしてガスのせいで音が何も聞こえない。音といえば自分の歩く音、背中の中の水筒の音、羽音だけである。立ち止まれば無音の世界。まさにシン音が聞こえる。それから少し行くと有毒温泉の大きなへこみが見える。ここだけはガスが少し晴れて黒岳の方まで見える。この辺は平でとても広く見晴らしも良い。ここで寝ると気持ちいいかもしれない。でも、まだ時間があるのでキャンプ地向かう。しかし、ちょっと歩くと着いてしまうのだ。まだ4時前、予定より遙かに早い。キャンプ地は一応水がある。山の雪渓からの水なのでとてもつたくぬるくなつてしまった。ピールを冷やすにはもつとこいだ。さっきの広い場所とくらべると究極の選択状態になつてしまう。やっぱりピール

は冷たい方が旨い。先客が2組いるがすでにテントの中にいるようだ。僕はピールを冷やしテントを張る。さすがに登山装備でムーンライトIIIを一人で使うと広い広い。いつも落ちかけたテントで寝ているので少し落ちかけた。夕方になり夕焼けも見えず酒を飲むうちに夜は更ける。朝、雲は少し多いが晴れている。朝日がきれい。一張りのテントははずでなく。僕も昨日から冷やしているピールも忘れずにパッキングし、いよいよ旭岳山頂を目指す。火山灰の山は玉砂利状態で滑りやすく、とても登りづら。キャンプ地から良く見えていた山頂は遠かった。昨日飲んだアルコールを汗とともに飛ばしつ、やっとの思いで山頂に着いたのだ。山頂には日帰りのハイカーが既にいっぱい。観光地にはつきもの、説明したがりのおやじもやっぱいる。みんな持っている某登山地図を見ればわかりそうなのを、知ったかぶりで話している。またその声がかん高く耳につく。こういう場に出くわすと、山にいながらも下界の臭いを強く感じてしまう。山頂の景観を一通り見て、ピールを飲み干し出発した。登りも滑ってきつかったが、下りも滑る。油断する。とすぐに転びそうになる。「こりゃやばい」と思つた僕は軍手をはめ、転んだ時に備える。そしてすぐに転んで肘をすりむいてしまった。それから慎重に下る。途中、金髪のネーチャンに写真撮影を頼まれたり、おじさんに荷物を感じさせられたりしながら、ロープウェイ乗場に到着した。お金が勿体無い僕は決意も新たに、歩いて下る。この一時間半の下りは、笠の中を抜け林に入る熊がいつ出てもおかしくない道だ。人通りも少なく、擦れ違ったのは二組だった。一組はブルドックを連れているのでしかたなく歩く父子、もう一組は一人で喋りながら歩く父子、と危ない。二人、このニートは、屋近うに3時間以上はかかる中岳温泉に行くと言っていた。それも空荷。このニートのブルーライダースハウスの泊まりまくりのブルーライダースを見た。そのうち平らな道に出て下りで足がそうとうやられてることに気がついた。もうガタガタである。下りの難さを改めて知った登山だった。ちなみに下りは地図の時間とはほぼ同じだった。登り異常な早さは何だったのだろうか。記 地下鉄

本田庄司、米へ

本田庄司改めアイリスオアヤマ庄司がアメリカ、サンフランシスコへ行くのだ。社長がビヤード土地を買って、工場も作って、それでアメリカーへ行くのだ。英会話特訓も受けて半分アメリカ人になれた気分で行くのだけれど、前途は多難でついでに淋しいもんだから、川崎で壮行会をやつたのだ。編集長でいくと、シェフ地下鉄と、メッキ職人の腕も確かな元ちゃん、酒差し入れ姿なしの柳ちゃんと、外国帰りの税金と、主家取られのストウが集まって、「四方同席」などと始まったのだ。嬉しくて涙流したアイリスがその夜しみりと川崎で泣いたのをみんな知っているのだ。その後、カラオケなどお繰り出して、でいくの別れ歌など聴かされたら、アイリスは益々泣いて多摩川が溢れてしまひそうになって、本當にも大変な夜になったのだ。いわゆるその、敗戦国日本の復興をアメリカの人達にしらしめてくれる役目をアイリスが果たすかどうかはわからないが、頑張つてくれ。と、思つたのだ。



1-天気の宴会



以上、組長の所蔵品、送料着払いにて
さし上げます。取りに来ていただく
です。ビル券その他、寺崎組新聞運
営費などいただいてもけっこうです。
申し込みはスタジオエッグまで。
早い者勝ちですのでよろしく。
10号平松氏より提供 ホエーブス7
25 キャンプ1回使用 5000円
もありません。

C. しんちゃんのお父さん
クレヨンしんちゃんのお父さんは
サイドカーに乗るバイク乗りだった。
側車に しんのすけを乗せ、田舎の
実家へ帰省する話がTV放映された。
料金所の通過、雨天走行：等々の
バイク乗りの苦勞が描写されており、
我々が観ても思わず頷ける内容だった。
脚本家原作者はバイクを知っている
人かも知れない。
24号 やな

「原稿欄大募集集の
お知らせせし」
良い事も悪い事も寺崎組もその予備軍
も自分達の活動原稿で写真でマンガで
自分だけの表現でしてみませんか?
送り先は左記
千一八五
東京都分寺市東元町三三二十九七
スガダテ寺崎組



去る10月某日、群馬県は四万温泉に
於いて、ぎ・TW組の関東グループの
交流会が行なわれた。栃木から2名、
埼玉1名、横浜2名、東京1名、都合
6名のTWとそのオーナー達が集い、
翌朝からは赤城山への走行会。現在の
組員は約20名だが、TW組新聞の創刊
予定は未だ無い。

翌年、W氏はXLR改で一年間程の
豪州ツーリングへ出かけた。浅草で
行なわれた壮行会に柳沢も出席した。
87年春、初めてバイクに乗ってみ
たい：と思った柳沢は28歳、まだ
髪は充分にあった。まさにそんな頃に
TW200E(ヤマハ 2JL)は
発売されたのだ。
だがしかし、柳沢とTW、寺崎勉氏
そして寺崎組との 各々の出会い
はまだ先の話となる。以下次回?



去る10月某日、群馬県は四万温泉に
於いて、ぎ・TW組の関東グループの
交流会が行なわれた。栃木から2名、
埼玉1名、横浜2名、東京1名、都合
6名のTWとそのオーナー達が集い、
翌朝からは赤城山への走行会。現在の
組員は約20名だが、TW組新聞の創刊
予定は未だ無い。

毎週土曜深夜NHKで放送中の
「ヤングライダーズ」はエクスプレス
連続ドラマ。しかし実は1人は少女だ。
ふふふ...

私に釣りの野宿に行き、群馬県六村町の野反
湖が4年前に行き、群馬県六村町の野反
湖が4年前に行き、群馬県六村町の野反
湖が4年前に行き、群馬県六村町の野反
湖が4年前に行き、群馬県六村町の野反

紙上フリーマーケット
74年頃〜82年頃までのオートバイ
雑誌 モーターサイクリスト オート
バイク それ以降のライダーズクラブ
サイクル サウンドス アウトドア
バル アウトライダーズ などなど

私のストーブいろいろ
* キャンピングガス
20歳の頃、カワサキZ650で友
と九州キャンプツーリング使ったが今
どこにあるかわからない。
* イワタニプリムスIP2234SA
一日ツーリング用にといい買いまし
た。
* EPIアルパインストーブ
キャンプ用にいい買いました。寺
崎組にもこれでよく行きました。
* EPI BPS型コンロ
かなり良いと思います。ジャンパーの
ポケットにも入れて持って行きますよ
* モンタナ ホールドバーナー
山屋さんで買ったストーブ
* コールマンビーク1
1台目、伊勢軍団の上村に買った。
これはかなり使いましたよ。私の初の
ガスコンロです。
2台目、黒いボディーのビーク1
3台目、シルバートのアンレデッド箱
に入れてしまっている。
* コールマンデタッチャブルストーブ
寺崎組の高野山で使った。
* MSR
1台目、X-GR型と2台目ワイス
パーライト。このワイスパーライトは
よく使いますね。コンバクトで火力も
ありますから私は好きです。
* オブチマス8R
コンバクトで四角、面白いので持っ
ている。
* マナスル160型
やつとこの思いで手にいれた。オブチ
マス8Rもときどきです。
* ホエーブス625
生産中止になると本で見えて買って買
ったストイブ。組長がモンゴルのガソ
リンでも大丈夫だったと聞き、スゴイ
スゴイと思った。
* ホエーブス725
寺崎組の四国で1回だけ使った。す
ごい音でした。
なぜか私はストーブを集めるのが面
白い。たんなるコレクションなのか今も
わからないのですがとにかく面白いの
です。皆さんも是非ストーブマニア
になってはどうですか。
伊藤哲ちゃん

組長執筆中雑誌
○バックオフ 毎月24日発売
○オートキャンプ 毎月6日発売
○サイクルフィールド (季刊) 毎月15日発売
○CCV (季刊) 毎月15日発売
○大日本絵画 (季刊) 毎月15日発売
○大日本絵画 (季刊) 毎月15日発売

組長執筆中雑誌
○バックオフ 毎月24日発売
○オートキャンプ 毎月6日発売
○サイクルフィールド (季刊) 毎月15日発売
○CCV (季刊) 毎月15日発売
○大日本絵画 (季刊) 毎月15日発売
○大日本絵画 (季刊) 毎月15日発売

組長執筆中雑誌
○バックオフ 毎月24日発売
○オートキャンプ 毎月6日発売
○サイクルフィールド (季刊) 毎月15日発売
○CCV (季刊) 毎月15日発売
○大日本絵画 (季刊) 毎月15日発売
○大日本絵画 (季刊) 毎月15日発売

